

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりたのしくその人らしく」を基本理念としている。理念・年間・月間目標をフロアに掲示し、毎朝、申し送りの前に当日勤務の職員が理念を読み上げて、新たな気持ちで職務に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者の重度化の中、日常的な交流が難しくなっているが、地域の行事(公民館・いこいの家等)の情報を収集し、できるだけ参加できるように支援している。自治会に加入、回覧板を通じ子供会の廃品回収作業に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族、町内会長、民生委員、いきいきセンターの職員に運営推進会議の開催案内をしている。会議でホームの現状や認知症についての話など毎回出前講座を開催情報の発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回定例化し、いきいきセンターや民生委員、家族に参加して頂き毎回施設状況や課題等を報告。皆さんより質問や要望を頂き職員に報告し、サービスの向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県や市から来る事業者への指導内容及び研修の案内等のメールやFAXで必要な情報を収集し分からない点などは積極的に電話で問い合わせや確認をしている。市の「出前講座」も頻回に利用し、ケアサービスの向上の為の協力関係を築く努力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の場においてご家族に身体拘束ゼロの福岡県の取り組みについて説明をした。そのうえで入居者様の身体拘束をしない方向でのケアの理解を仰いだ。入居者様の危険を回避するための職員のケアの在り方についての話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の勉強会で必ず年に一度はテーマに取り上げている。また外部の研修で職員が勉強の機会を持つよう取り組んでいる。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修に参加したり、内部勉強会も年間計画に組み込みスタッフ会議等で関連資料を基に勉強している。現在のところ活用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示し内容全てを丁寧に説明している。不安や疑問点について確認を必ず行い理解と納得を得られる様にしている。入居後も日々の中で本人や家族に随時話を聞き確認している。玄関にご意見箱を設置し気軽に意見が頂ける様に留意している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等については意見箱を設置し気軽に意見を頂ける様にしている。管理者・職員は面会時、運営推進会議、電話等で相談苦情を言える様な雰囲気作りに努めている。本人には日々の中で言葉や表情からその思いなどを把握するよう努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的にケアに関わり、職員とのコミュニケーションを図り、ケア内容は勿論、環境整備・レクリエーション・勉強会の内容の検討や食事メニュー・接遇関連等々、全ての面について職員の意見を聞きながらサービスの向上に努めている。施設長(代表者)も管理者から逐次報告を受け、全て把握できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの状況報告や現場で職員の意見を参考に、管理者と協議し、職場環境や研修の機会、資格取得を目指す職員の勤務の調整など条件の整備に努めている。職員の向上心や日頃の努力を評価し、やりがいや定着率のアップに繋げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては特に制限をせず、介護に対する考え方や人柄を重視している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に外部研修を積極的に参加させ、利用者や家族に対する人権の尊重について、学んだ事をスタッフ会議等で復講し、意識づけの徹底を図っている。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット)			
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況  次のステップに向けて期待したい内容		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員には必要に応じて外部研修を受けられる機会を作り、質の向上に繋がるよう努めている。ホームで「運営委員会」を設置し、各自が担当部門を遣り通すことで責任感と、やりがいを持てるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入。総会や研修会に参加し、その際に同業者と情報交換をしたり同系列のグループホームとも常に情報交換し、お互いを高める努力をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅生活の方や入院・施設入所されている方は現場に出向き、家族にその方の事を詳しく訊いて情報収集する。ご本人の困りごとについてアセスメントの段階で居室において丁寧に話しをお聴きするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に何らかのご心配を持たれてお越しになる。ケアプランの作成時にご家族のご意向をお訊ねすると共にご心配や不安をお聴きしている。又面会時にお話の機会を設けている。入居後は状況を細かく報告し、一緒に支えていくという姿勢で接している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の基本情報・バックグラウンド・アセスメントなどにより、これまでの暮らしやそれまでのサービス内容の把握に努めご本人の施設での生活において必要なサービスについて、ご本人の介護度を鑑み、自立支援に結びつくサービスを提案できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に「その方を必要としている気持を大切に家族のように支え合い、寄り添ったケアの提供を致します。」とある。洗濯物を一緒にたたんで頂くなどの役割を持って頂き、労いの言葉をかけたり、会話の中で経験談を傾聴したり、プランターでの菜園の種まきをするなど職員と一緒に楽しんでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を毎月お便りを通じて、また面会時にお話をしている。ご家族が協力できる方には通院や外出、施設での行事に参加をお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族とのふれあいの時間を大切に考えている。入居前に付き合いのあった方々との交流や家族との外出について積極的に支援している。家族の面会が途切れがちの方には、家族に来て頂くように誘いかけをしている。ご自宅におられた時の記憶を残されている方が少なく苦慮している。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりは、服の乱れをなおしてあげたり、励ましの言葉をかけたりする場面も見られ馴染みの関係はできている。談笑されることもあれば、急に口論されることもある。食事の時の席等を工夫したり、トラブルに配慮しお互いの感情が悪化しない様に職員が支援、配慮をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為、退居された利用者のお見舞いに行ったり、家族から、入院中の状態について電話を頂くこともある。退居後の関わりは殆ど無くなる。しかし入院などで施設を離れられた後に又状態が安定し再入居となった方もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身のご意向を訴えられる方はその意思を尊重している。訴えの無い方についてもご自身が笑顔になられる様子や家族と話し合いながら思いを探り対応している。また生活歴を参考に提案をしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供をよく読み込み、アセスメントを行いまたご家族に伺ってこれまでの人生を知る努力をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りを参考にその方の状況把握に努めている。本人や家族へ生活歴の聞き取りを行い、ご家族にも希望や意向はないかを確認している。入居決定時は家族に了解の上で、入居前の入院先・入所先の相談員等からも情報収集し把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新時にはサービス担当者の照会用紙に職員の意見を必ず明記してもらい、会議で共有計画に反映している。療養管理指導の薬剤師、医師にも照会用紙を書いてもらい参考にしている。又ケアプラン実施表に毎日のサービス状況を記録しモニタリングとしている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプラン実施表を作成し毎日のサービスの実施を記録している。月末に記録を通じてモニタリングを行いサービスの提供の状況の把握と有効性について検討している。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族から希望あれば可能な限り外出外泊等の支援をする。ホームとしても気候に合わせた個別外出を含むレクリエーションを実施している。利用者の身体状態に合わせ、訪問マッサージ・訪問歯科のサービス利用の支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の利用やボランティアでギター演奏に来て頂いたり、地域の行事に参加したりと、楽しんで頂いている。しかし利用者の重度化やマンパワー不足などの課題もあり、有効に活用できているとは言えない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重し、訪問診療の機関を紹介する等して、適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族には受診結果や薬の変更等について逐次報告しているため、利用者の状態把握できている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日常業務の中で、バイタル・排泄状態・摂食状態等々を把握し、異常の早期発見に努めている。介護職員も異変を感じたらこまめに看護職員に報告・相談等を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医とは常に連携し、利用者が入院された際は病院関係者に必要な情報を提供し、電話等で現状報告もしている。退院時は事前に面会に出向き、病院関係者からの情報収集を図り、関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にホームでできることを十分に説明、理解して頂き、またケアプランの説明を行う際にターミナルについて、ご家族がどういう考えをお持ちなのか確認、ケアプランにも明記し、チームで共有している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月テーマを変えて緊急時対応の訓練を実施している。職員に実施の報告も記録してもらい皆で共有している。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を毎月防火管理者を中心に実施している。火元の想定を替えている。また報告書を作成して皆で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の声かけについては、乱暴にならない様に自覚を促している。職員によってその日の施設の雰囲気が変わっていないか、改めて考える機会を儲けたい。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がいきなりにケアをしまわず、まずは声をかけて許可を得る様に指導している。また選択の機会を持って頂けるように問いかける様にして行きたい。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ余裕に欠ける職員も居るが、時間に追われる事無く、職員間のサポートを育ててゆきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ただあるものを着替えて頂くのではなく、行事や季節や色柄を考え支援をしたい。ご本人の選択も重視している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の入居者様にお手伝いをして頂いているが残存能力を活かした支援が課題となっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食記録を行っている。毎月の体重測定も併せて行っている。それらを参考にお食事の形状や量や介助を調整している。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助をご本人の状態に合わせて行っている。又歯科医による定期往診や歯科衛生士による口腔ケアも行っている。(療養管理指導)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皆さんに日中の排泄はトイレでして頂いている。夜間オムツの方も日中はリハビリパンツにして頂き定期的に排泄介助を行っている。立位を促し移乗もご自身の力を使って頂く様支援をしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳などを使い軽い便秘には対処をしている。自力排便が困難な方には医師に相談をしたり看護師に誘導をしてもらう。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯はどうしても決まってしまう。ご本人の拒否があった場合は時間や日にちをずらして対処している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方によってお昼寝をされたり、気分のすぐれない時は居室で休まれたり自由にされています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者の薬の名前や効能や服薬の時間を記した表を作成している。又会議で薬のテストなどを通じて勉強会を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんで懐かしい歌を唄い、また昔話に花を咲かせる。毎日の食事の片づけや洗濯物たたみ等出来る事をその都度手伝って頂いている。誕生会を開催し入居者様やご家族にも参加して頂き一緒に楽しい時間を過ごして頂いている。		

自己	外部	自己・外部評価表(Bユニット) 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が積極的に外食等に連れて行かれるケースも多くホームでも個別レクリエーションで職員と1対1で喫茶店に行ったり、季節や自然を感じて頂く為、車椅子の方も含め近道を散歩したり敷地内の花壇の花を觀賞して頂く等の支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方は居られないが、買い物に出かけたり、外出時には必要に応じて、本人に小額を持って頂き、支払いができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化した利用者が圧倒的に多く、自ら電話をかける機会はないが、家族から電話がかかってきた場合は取り次ぎ、本人が電話でゆっくり会話できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に生花を飾り、壁面には季節毎の飾り付けをしている。台所で職員が調理する料理の匂いで家庭的な雰囲気を感じて頂いている。トイレ内の不快な臭いの防止に茶ガラを入れるなど消臭にも努め心地よい環境作りに努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・エレベーター前には椅子を設置しているのでもいつでも自由に過ごすことができる環境にしている。又、フロアにはソファを置いており、窓の外を眺めたり、気の合った利用者同士談話したりTVを観たりと、思い思いに過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇等を持ち込まれ、これまで通りに使用して頂いている。家族との写真や手紙を居室に貼っている。居室は明るく、広いので家族等の面会時もゆっくり談話できる空間である。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・通路・浴室等に手摺りを設置し、施設内がバリアフリーになっている。トイレのドアに明示し、浴室が分かるよう暖簾をかけている。フロアに職員手作りのカレンダーや日めくりカレンダー・時計を掲示し、日付や時間が分かるようにしている。		